

研修コーナーの利用法

中央認定医制度委員会

委員長 矢内原巧

研修コーナー編集委員会

委員長 荒木 勤

日本産科婦人科学会認定医制度における卒後ならびに生涯教育の一環として、日本産科婦人科学会雑誌に「研修コーナー」を設けてまいりました。この研修コーナーの誕生は、昭和63年（1988）10月発行の日本産科婦人科学会雑誌40巻10号ですからはや7年以上の歳月を歩んできたことになります。この間、研修コーナーでは「今月の研修テーマ」を掲げ、種々の疾患に遭遇したときどのように対処すれば適確に診断・治療・管理できるか、といった言わば一般臨床医が知っておくべき「基礎的、実地的知識」を各分野の専門家に具体的に解説していただきました。この研修コーナーが会員の方々の生涯研修に大いに役立て得ることができたと考えております。

しかし、最近の研修コーナーはやや専門的過ぎる内容に偏ってしまった、マンネリ化したなど、会員からのご指摘が寄せられました。

そこで研修小委員会で検討を重ねた結果、第48巻では minimum requirement を中心とした、研修医の初期研修に役立ち、かつ生涯研修の一環としても十分役に立つような内容を重視することにいたしました。これらのことは日本産科婦人科学会中央認定医制度委員会、理事会においても承認され、日本産科婦人科学会雑誌48巻1号からスタートすることになりました。

主な変更点を以下にあげてみます。

- 1) 研修コーナーのテーマの内容は、minimum requirement のものにし、初期研修に役立つものにした。
- 2) 各号ともテーマはなるべく一つの分野に統一するようにした。
- 3) 内容には日本産科婦人科学会で決められた定義などをなるべく導入することにした。

ただし、内容に関しては執筆者の policy を重んじ、記述は常識の範囲内で、必ずしも学会の見解とは限らない。また、ここまで実施しなければならないという医療水準を示したものでもない。そのため、従来通り執筆者を明記することにした。

- 4) 各テーマの解説の最後に、本研修に対する効果を自己点検・自己評価するための EXERCISE とその関連問題5題を作成した。

なお、各設問に対する正解を示したが、学会の統一見解以外はあくまでも参考とすることにした。

以上の点を主眼に、研修コーナーは新しく出発します。大いに研修コーナーを卒後研修、生涯研修のために活用していただきたいと思います。

研修後にその成果をご自身で自己点検・自己評価をすることも大切な活動の一つです。

自分のもつ長所や問題点が明らかにされれば、今後の研修方策のよい参考となるのではないのでしょうか。